

30

20

10

9

8

7

0

JAPAN



門號
1700
1

墨序



文 七月

影鷄愚懶を號す。身體薄くりんずれ。ある
ありめく。わいりももうれと。毛穂孫に
ありて玉樹とうじゆふくのれ。纏著の端
としらなしくだらうに世の波うとく。一輪
波うとく。うつまかふまく。あひ波入
にみき。ほぢよき。あはれ。おはらのす
ひ。緋拂。月。あま。さのこ。櫻。波。追。い。ゆく。ゆ
とに傷詠。乃。毫。お。書。ま。と。わく。せん。事。あ。き。り。
か。き。り。よ。此。手。裏。を。ま。づ。ま。く。可。禁。れ。中
ま。ま。よ。

予瑞龍軒恕翁羽ヶ撰せ。閩原軍記全文を讀し。ふ怨翁
一族湯村或部著二つの可笑記は本庄越前守繁長
加東禪寺右馬以と計く正宗刀を得て。と引角。因
此書之撰者の名を刻む。其事。湯翁口を案

可笑記卷第一

湯村或部著

むかしは人以為之筆蹟つらのこれ已年。東北を主とす
タラ主ひも、清風墨わくられども。されんわや。一み
れを積みぬども。すすめ。されば名譽へ博士。故又を
あくがく。被り難き我朝文武乃と通じて。もくす
愈益あくの墨なり。これぞ王法繙くえー。す。前
今以後古より有る。傳乃あく次第に裏く
累代の家法。もうちひ。仁義をとじて。まよ。剣へ
無能を解す。利刃利口ふくらゆる。教ふう。う。利
にまひ。ひだり。たる。の。教ふ。う。あそひ。まよ。う。けを
わい。も。孔子曰。生を一まほ。う。せ。と。ま

も。まほ人今えど。穀梁傳とよぶ物。すじ厚。春乃子
は。穀梁傳の事の。秋て。やまと。川。流へかくひ
きを。うきり。あく。ば。寒。嵐。あ。れ。行。ま。の。事。ゆ。れ
が。ど。逃。遙。わ。ぎ。久。生。よ。く。も。難。よ。お。わ。そ。せ。内。ん
ち。わ。よ。も。や。く。い。す。く。と。死。罪。獄。刑。よ。わ。こ。す。よ。わ。は
き。れ。し。正。教。ハ。外。に。終。す。か。う。し。被。ど。主。害。

父母とほおの涙落あらす。痛うひ落あらす。
悲くあらぬはいふをひそむ。御名御称ひ求めまこと。
もと。に下に接ひ。すすみに教めうづ。さうへ何
の涙落あらんや。涙落あらす。おとくに接せらやう
らや。死罪。刑もえき。但は身を不意。心不儀理
不じ義。うく涙くあひ。かゆひ。れれこなひく。
其涙落。涙落やめしとあまふとをえよ。やしま
あらば。わざやめふとをぬく。折捨らやくらやく疏
冠。涙落の経る。よく涙落あらじ。けん
あらす。たゞ。涙落あらす。あらう。涙落はまく
まくとめく。すう。あらう。涙落あらす。あらう。涙落はまく
が、うれしや。あらう。涙落あらす。あらう。涙落あらす。
涙。あらう。涙落あらす。あらう。涙落あらす。
くづ。涙落あらす。あらう。涙落あらす。
せれしれ。涙落あらす。あらう。涙落あらす。
く歌う。すく物と歌はれて。涙落あらす。
いおう。すく物と歌はれて。涙落あらす。
うう。人のうか。涙落あらす。
母お食ひ。うう。不食ひて。あらう。涙落あらす。
ま。涙落あらす。
し。涙落あらす。涙落あらす。涙落あらす。
を。涙落あらす。涙落あらす。涙落あらす。

往人の歎惜也。此の如きを以て其の歌余を取る事より
附屬也。福者れど死ちておらずて大食に背す
里わらぶ被て惣也。女あれよもんがして乞食ば
オを碎わく風立ちく惣也。日比山老不參ひて儀式
殿主に於かく時惣也。美るゆがく時惣思ひすて大
奉とおもふ惣也。げく表裏にうらう裡て思え
あくて惣也。美乃はなから先あるとひ思料よたこ
あり種く惣也。あはるよまとり。もやまくもく代。惣也
美津源て前を相違ひに惣也。志あづく時にほ
よまく生ひねみて惣也。

じ。いと人へえむ人の心ひよえん小もれて惣
やと見ゆなり。おもひされしゆくまこと思ひよつて
物くづく。おもひうづく。おもひうづく。おもひうづく。
さわべかりうめひも葉をとり葉のねびうづく。おも
じ。唐桂之園乃きうづく。おもひうづく。おもひうづ
く。おもひうづく。二本あり。種乃女はじ男よあびこおも
ひく。おもひうとおもひう。又種の女はわが夫はおもひう
し。おもひう。此男はおもひう。おもひう。おもひう。おもひう。
おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。
男称ふ。おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。
おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。
おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。おもひう。

勢くがまう。抱箋樂に歌やう乃行を參る。工畫の數。或て
わづ。先君智乃公がお孫さん。一公が乳母おひへと子
んうけりとでござ。十年たゞのも道よ御さんと学び
をや。さあががとく乃学をとくも子細半五
六景しとこなにかまで学文はんふがたかまの志
研修あり。もうべ四書七書三注周易等の序をす。附
錄乃書籍。或もあくま。博くとくれ。さわんふたてん
たとく天余に。おもと教子の儀うつと世の人よ養
あくめ。おもとせくべ。其上おは裏なうる者何故
かく心に悟るわうれ。然ゆも。然ゆじるれ。い
寃苦攀羅の愚人らにま。形うべ。げふくくうど家
業業耀ありと。も欲念よ。執禮。おもと乃思ひよた
されふ。一生うじ始く。終うさあく。何の業ともわざ
うそぞ智もいたれぬ。世うるのん。抱箋樂をよき
どく。うかがひ。家業もうべ。誠なを。方も。事う。樂
志も。其中に。うそ。大聖孔子乃は教。わう
む。唐子。立極先生といつろん。ぶ居て。を。身。通し。ま
事ありて。二。い。世に。お。仕。時。自。鷗。とい。も。身。お
て。飼。け。が。秋乃は。や。照。ふ。月。ま。く。お。あ。め。て。ば。み。乃
倒。か。鷗。山の。櫻。う。紀。ま。と。歌。う。く。歌。ま。う。き。か
ま。か。人。あ。れ。が。お。が。ん。う。思。い。わ。き。て。お。れ。ら。た。う。う。今。比
在。乃。鷗。よ。し。じ。に。め。く。い。で。う。思。い。あ。れ。ま。牛。馬。大。鷗。の
か。飼。う。と。い。あ。

し者まことにえうひあきふきゆくをかう人の子をあらがふ
らはるよんのくぬへ。もとすもんのむきを毎秋す
ぐすお供えに神御黒用すうごく。はれりんハ財庫用
えいび下戸あくべーとせ

ひりもかん乃まく半ハんぐらげて齋わう終よ所も
もれうさあひたんぐらふくそあひゆやくそす
種ひしわひ鶴ハんぐらうてげつめきゆ今よ處くま
すれけあふ歎もとく美は藝能志もん歎廢を
う乃藝能よたねり。自慢して他有ものぞくもて
後事がまく喧嘩口論とぞ。前事をくじく壽生同
前小あきゆくこそ景仰きどんの修ふ金きハ信
あらん。大身の経人金實りを局人物。まこと人三角形頭

すりんぢく強人利根利は乃ハ公剛さう人
じうきよ人乃うう世間の人。我としけがほくの通じ
や極めうかねばくとんや世人ふかひてわみどりわふすま
う終もか纏分すからとくねどもあめ懐すすて天下に
窮とぞれ。外らのことを。衣服はあくが生乃うう
やかね。事のうちを。佛經戒律聖經傳乃書はう
して互通のうとけとく。潔の黒くみども游ふをいた
がくやく。行は長久縫ども申歎してうじきく。山
を向う縫ともが民生。縫てこめると今を肥ぬく
人がうと瘦れまく。ひうちよ。かます。あう
あうて瘦やうさんと食あればあからずじが先だべか

もとまわ。只せひのきと尋ねにまわせいたるありじふく。お
乃め女わ。へそにむしろきつて。うひかちどびうが
にまわく。女懷かて。お月を。織あく。産れ織月と
き。様ひまわきて。むじもああ。あつまれたのこじく
にまわく。腰立あく。撫へまわ。ひごとくうがくて此
とび。生れを。男のまよ。くとくとく。組み。うじがくとく
くぬよ。かまびり。すくまでも。むらり。あ。腰もくら。うこや
くら。め。けども。かしを。く。袖ぐら。もく。あ。腰もくら。うこや
を。ども。め。くとく。ます。うけもくとく。と。腰育。うくら。に
うがみ。組あく。くとくとく。と。けひがく。月を。う。おんち
て。翁タヒ。うのとくあく。うだら。もく。いよ。み。おぐ。歌人
す。うか。おほしま。あたが。まも。おひか。歌人セイト。

あけぬがうわまではじく。まとも耳みく眼ほそく頬
あぐやつむひ嫁しむかとてゆみの女あうされを
ひこどり。めつみをあらだ行もとすとあらへとくわ。さ
せじきれつあるはあらてのめい時ふくに鶴びつどく
やあがくべんや禁づき乃たもりもとがくが、家ちくは新し
おうちた金んよがあよモド。さうはおとおおはれくす
仁義礼ふ育身金あううべ。かほへ事

おうはん乃うべ合戦す御べとまう乃日うと肩たゑ
おもねりお國ち風おととあくまう阿カ一教説済む
ゲリベー

むすめ人乃まはすも世中乃くもはるは思へぞの
うれやとあくもんわとまわくして世と離あづまは
かくにあうて後乃お清(清)川(川)のまへ。人對す而
世がまんや經す年月をあくとむ終乃がくらむにみをわ
塵(塵)に金(金)殊(殊)りきよとがく人の志すはく。だそくお
うとくんあくとくやられハ根とまう構(構)う。志くく
にうとくんあくとくふりて傷めべ。しも蟲(蟲)く。と。平(平)
あくままで年月経りまうにまの極のまもとわくに
うえねがくらむく寧(寧)かと極て白世に本ねく。とく
ぬくをなうべ。さんや人へちに一二(二)とくもわく死(死)
誠(誠)の立場(立場)のまく事(事)しまじく海(海)が下(下)あゆ。とくに
いあがくうづのとく。とくを年(年)にうせばくいたが死(死)
ましたの月(月)にだざ身(身)をかきのよ。とくにうて。とくにうて。とくにうて。

ナシト。かくへれど今もや我オ乃志ぬが如はゆ
じや。よまと通來わす食ひ道ありてよとさ
シテ。そぞを成乃れたの下家招子。あはせ後乃生母と
御よべ。とはうかる。我を又う殺められど。ばおひい
なうお業乃つて。もや。まごが生のまんは。えひ。のと
あめれど。切やわ。かくも。も。う。い。が。ち。く。ま。る。の。の
あ。穀。わ。ん。ぐ。ざ。ね。の。ま。く。け。は。り。わ。れ。そ。ど。と。の。ま。と。が
ぞの。歌。よ。ひ。く。が。く。と。バ。債。人。ま。く。熱。も。う。財。資。も。ん。や
な。く。べ。ト。ま。く。熱。て。一。物。一。物。の。熱。あ。れ。
ま。の。の。は。戸。の。中。に。も。う。き。く。ま。ま。の。日。ハ。ま。く。く。く。
一日に一人のまさんや。わくとこを。は。神。山。ま。て。
ま。あ。の。ま。く。財。ふ。と。い。金。常。も。く。

かく。夫の心は、おまえの心。病めう。おまえの心。病めう。おまえの心。
さ。男女の心。病めう。おまえの心。病めう。おまえの心。病めう。おまえの心。
さ。男女の心。病めう。おまえの心。病めう。おまえの心。病めう。おまえの心。

○母モト去人ムツヒト乃モうるムル大辭タカハシ孔子コントク乃モおはオハ又母アマおオ人ヒト
極カタ山サン慰エイ乃モあ叶ハタキにヒタチ也ヘバ。因ウケ其ヒてアタフ之ヒに
主シテ小コトハ我ガ以シ之ヒ。但シテ父母カミイリ小立コトハシタ。且シテ重シテ
仕シテ也ハ。其油ヒツヨウ清シラカバ也ハ。且シテ之ヒに父母カミイリを重シテ
才シテ余ハいざれハ也ハ。且シテ有ハんもハ。且シテよひハ用ハ乃モ
わハんもハ。且シテ助ハ小コトハよハ。且シテ父母カミイリの我ガ
をハりハ。且シテ助ハ小コトハよハ。且シテ父母カミイリの我ガ
父ハ母ハ也ハ。且シテ父ハ母ハ也ハ。且シテ父ハ母ハ也ハ。且シテ父ハ母ハ也ハ
也ハ。父ハ母ハ也ハ。且シテ父ハ母ハ也ハ。且シテ父ハ母ハ也ハ。且シテ父ハ母ハ也ハ

まうとまゆる。様子にううべ。大名が小名をもひも
じよふとうひ。小力うたう乃まよ。ほもれば。おをう
あきふ。或ひ侍が町人をまよ。町人侍のまよ。おま、侍
をまよ。侍がおまよ。まよがお別あくべ。

○むうわうんひううべ。一日やがれも。樂ひこあこもれ
うづれとるよいねる大勢のゆへもへらがれすが
ひまよえううべ。とてゐる人ありて。笠より力入れて
ひかくにあやひれくも角もれことみくす小脛うち
まに。我ほのんびりに。もとえたり方より。そが
もとよくんせうして。またに。視れわくんとする
が。あくまくの脇や。そともや。我まくす笠うづに
靴。て。我もくすうすうじ。我うろみれん又よくす
野て脇うづべ。我たうりおもれて。うづれうづく。我
右乃くえくうがうべ。我ううりたうく。脇のう
くに。我まへたうくえくうがうべ。前金うづ
あうどや思ひ。すうんくと。立ぬまくが。なく思ひ出
うづく。あうくね。やうみて。もうおもひ。うづくね。
ひうわうんひううべ。我一せある。うづくね。
をうづくね。わうの。おひく。うづくね。
はくまく能乃理本。へうづくね。うづくね。おうわ。うづ
けうづくね。うづくね。うづくね。うづくね。うづくね。
はくまく能乃理本。へうづくね。うづくね。うづくね。
うづくね。うづくね。うづくね。うづくね。うづくね。

カミハ一休和尚の巻之三
くやと翁

○者の人々は大抵のやうな事
がこゝへきてやううきト怪しかつて
御金箱もしく乃ち貯めことよりわれふとが
かゆびらひとおゆか供ともいふなどと
まゆみの爲めに思ひ日取多事難免よたれ
えんふ長じて沙汰ひて毎晩ひとの
ねぐら代へる老ともう神と爲て終ひ
國の仕事は不下もみぢり一はめりやうあや。

馬鹿のことを思ふておもひだすとくもそれ
じよじよせうひ縮むわざひとくもゆめりて

西遊不遙いかうりまじあうれい小の老も邪こ圖
唐僧らしの見せりすにねおのうく様くほり御
あきうれのうかくらすまでな。おはま近づまうせて
一やうの氣に入まううろくや。佛の像を乃面の
よみうかうや。佛の像をくそに引入あはれまう
かはうれの佛の像をくそに引入あはれまう
なうがうれの佛の像をくそに引入あはれまう
をくそに佛の像をくそに引入あはれまうの
あれをじよくめたら経讀をひけられて。佛の像を
じよくめに想ひ方於我ふさわせがめおたれそ
詮卷の書人からと思ひ方消すてほうふくじまくに
かくせ終ふてからまうべからずおまくわ

従ふるよれら入修のを取たるも別文多所あり。之を
乃づ從者に引人車びまくもあんまうこづひわんや。いと
やばに篠乃まうじは主事か、さや。おそのめんくわぬまうべ
すまうぐのゆきくわね。篠取ひたてど。おも詰へうわを
あ。まえの狗御よわづ。まもむ坐す方詰あひ。山森トうふ
駿。安乃氣。成づて。念とこううす。又一角やうる御へ
女じく角。也通力自無。角うきう。も駿。まう上人。ま
こづわま。也御志もて。教ううされ。もと。多義若よお幕
して。高きアラシ。うなみ。も。山。ア。レ。王。十。若
の。丘。位。角。す。松。古。うん。せ。あ。う。し。て。め。乃。と。れ。中。勢。と
い。す。女。房。に。壁。経。ひ。く。ま。け。か。御。道。タ。テ。と。ま。く。壁。
人。鬼。神。と。ま。く。御。ま。く。も。皆。女。じ。た。よ。か。御。リ。身。

多一
者。まほ。人。内。まう。の。敷。室。まう。小。圓。ひ。あ。ハ。限。う。て。寫。文。宣。済
撤。人。ウ。リ。ハ。ま。ひ。う。い。や。と。篠。貢。ま。ま。う。し。ま。く。ま。う。は
子。寧。也。申。志。る。人。進。しげ。す。寧。貢。被。う。て。滿。恩。ひ。う。そ
隆。仰。く。仰。う。る。ま。う。一。幅。去。御。し。新。ホ。ヒ。封。に。が。う。し。ま
内。裏。物。ウ。リ。一。と。モ。新。の。裏。と。モ。わ。し。つ。は。モ。被。キ。只
御。く。も。射。一。裏。も。恩。も。ね。ん。ね。り。つ。て。喜。び。し。度。が
金。宿。篠。玉。御。も。う。く。寫。や。一。恐。ひ。禁。も。う。う。づ。す。首。御。ハ
オ。乃。う。な。り。と。モ。主。お。て。せ。一。経。ふ。

ひ。う。の。と。や。う。ん。う。ん。人。内。篠。の。う。き。う。と。人の。浦。ド。う。浦。
ち。く。に。弱。波。の。う。のが。ひ。と。樹。の。樹。の。雪。と。れ。う。う。
け。あ。う。く。ね。故。や。ど。の。う。う。と。と。の。ね。乃。う。う。

にひらめく。當あらうつめべれられてあらまよ。是はすんま
おれ候。乃様とひふ後ましく。齒といふ物がつづけの事は
放よ。かくはく。がくはく。とをかく碎く。又舌むいあらま
ねうづく。今よやくまじて。がく生じるをかく。うづく
に人づか。まゆをあきらぬを。齒はむら。むら。むら。むら
ども舌ひとく人一絶。うちけ。爲ゆう。人むら。かく。また
えぬひとく。勢ひとく。剛よとく。徳石山家とく。も。脛と
く。骨とく。筋とく。筋とく。筋とく。筋とく。筋とく。筋とく。
にあよ筋とく。やとく。又水とよあひ。そと筋とく。筋とく。筋とく
みとく。筋とく。筋とく。筋とく。筋とく。筋とく。筋とく。筋とく。
又筋とく。筋とく。筋とく。筋とく。筋とく。筋とく。筋とく。筋とく。
も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。

大山のあつ。勢はとど打ふ。うばひんをあへんは
ひきがゆく。義理つゝ。たゞかひひし。まくわらもと
四年にあつて。彼のまくさんみすて。情よ。剛さ
んとめか。あとも度いへゆひだらう。ひつう。
人あひて。まくまく大剛強。まくのまくうべされ
青うかんかく。うかく含。まくのまくのまくもす
ぐれて。基す。まくのまくのまくのまくもす。お
きのまくもく。おきのまくのまくのまくのまくの
する。腰か。行か。抱かん。それぞ。齒痛か。だりゆうと
まく。腰よまく。何ア。まくと云ひ。ひよ。金輪、
あく。終ど。腰す。まくのまくのまくのまくのまくのまく
あく。腰か。まくと云ひ。ひよ。金輪、

はひと齋志^{アシタツシ}の事^{アシタツ}をすまへて、懲とす。身をす
まげみちく聖人^{セイジン}の御ふる心にあらざれも。まげじと
きくはひと齋志^{アシタツシ}の事^{アシタツ}をすまへて、嘆息^{クモリ}をすとばか
與^{アヨ}う約^{アコト}をすまへて、ゆくべ

嘗て^{アタマ}人^{ヒト}が^{アタマ}いふに、ほんは書^シはうひに、道^シ金^{カネ}乃
車^シの^{アタマ}もと^{アタマ}と^{アタマ}うひに、ばはうひに、とつよ^{アタマ}と^{アタマ}も
乃^{アタマ}を^{アタマ}に^{アタマ}と^{アタマ}うひに、そ^{アタマ}が^{アタマ}うひに^{アタマ}まて^{アタマ}
と^{アタマ}人^{ヒト}が^{アタマ}たゞ^{アタマ}出^{アタマ}され^{アタマ}うひに、ド^{アタマ}鷹^{タケ}が^{アタマ}を^{アタマ}
を^{アタマ}うひに、樹^シと^{アタマ}ひや^{アタマ}書^シはうひに、是^{アタマ}に^{アタマ}うひに、^{アタマ}て^{アタマ}世^{アタマ}
と^{アタマ}國^シと^{アタマ}、鶴^シと^{アタマ}、剣^シと^{アタマ}、壁^シと^{アタマ}、山^シと^{アタマ}、^{アタマ}で^{アタマ}も^{アタマ}
象^シと^{アタマ}乃^{アタマ}は^{アタマ}釋^シ理^シと^{アタマ}、生^シと^{アタマ}じ^{アタマ}と^{アタマ}も^{アタマ}と^{アタマ}し^{アタマ}て^{アタマ}や
くも^{アタマ}を^{アタマ}うひ^{アタマ}、銀^シと^{アタマ}ね^{アタマ}、金^シと^{アタマ}く^{アタマ}と^{アタマ}人^{ヒト}大^シ方^{カタ}乃^{アタマ}は^{アタマ}あ^{アタマ}
と^{アタマ}も^{アタマ}うひ^{アタマ}下^{アタマ}す^{アタマ}と^{アタマ}き明^シく^{アタマ}も^{アタマ}讀^シう^{アタマ}ぐ^{アタマ}り^{アタマ}て^{アタマ}い
め^{アタマ}や^{アタマ}前^{アタマ}あ^{アタマ}れ^{アタマ}す^{アタマ}す^{アタマ}た^{アタマ}種^シと^{アタマ}ほ^{アタマ}れ^{アタマ}ば^{アタマ}ね^{アタマ}候^シ仕^シ
う^{アタマ}と^{アタマ}かく^{アタマ}あ^{アタマ}り^{アタマ}一^{アタマ}身^シ

ひ^{アタマ}と^{アタマ}人^{ヒト}が^{アタマ}下^{アタマ}鷹^シ乃^{アタマ}洞^シ。若^シ飄^シみ^{アタマ}そ^{アタマ}り^{アタマ}え^{アタマ}わ^{アタマ}り^{アタマ}
ち^{アタマ}に^{アタマ}付^{アタマ}て^{アタマ}思^シへ^{アタマ}て^{アタマ}滅^シべ^{アタマ}り^{アタマ}う^{アタマ}れ^{アタマ}わ^{アタマ}べ^{アタマ}。
鷹^シ乃^{アタマ}人^{ヒト}が^{アタマ}下^{アタマ}ひ^{アタマ}と^{アタマ}よ^{アタマ}も^{アタマ}ち^{アタマ}く^{アタマ}。而^シ曲^シう^{アタマ}へ^{アタマ}か^{アタマ}く^{アタマ}ば^{アタマ}ん
が^{アタマ}な^{アタマ}よ^{アタマ}。と^{アタマ}お^{アタマ}ま^{アタマ}す^{アタマ}う^{アタマ}え^{アタマ}あ^{アタマ}り^{アタマ}。又^シか^{アタマ}乃^{アタマ}因^シう^{アタマ}む^{アタマ}か^{アタマ}
か^{アタマ}う^{アタマ}じ^{アタマ}人^{ヒト}が^{アタマ}う^{アタマ}て^{アタマ}、荷^シ廢^シ圓^シ。日^シひ^{アタマ}な^{アタマ}う^{アタマ}む^{アタマ}の^{アタマ}
か^{アタマ}う^{アタマ}じ^{アタマ}人^{ヒト}が^{アタマ}う^{アタマ}て^{アタマ}、手^シ腰^シひ^{アタマ}く^{アタマ}や^{アタマ}う^{アタマ}れ^{アタマ}祀^シ
え^{アタマ}色^シ赤^シあ^{アタマ}う^{アタマ}か^{アタマ}い^{アタマ}め^{アタマ}付^{アタマ}く^{アタマ}手^シえ^{アタマ}え^{アタマ}る
新^シと^{アタマ}う^{アタマ}向^シて^{アタマ}う^{アタマ}え^{アタマ}禮^シえ^{アタマ}ん^{アタマ}れ^{アタマ}人^{ヒト}也^{アタマ}あ^{アタマ}う

うううえやくやくたうせのひにうきうきうきうきを
すうあむまみさんゆう立派ながとういとじで
生身様で無事に歸るがう人をやうふあつらうあ
人のよれりとあす年暮じうとまくわくと
織子じきのじくうりやうよわねくシヘのくが
を舉とすわんとくらうれびとまくわくと
るひきだきはくはくはくはくはくはくはくはく
神どそんの中じん能能能能能能能能能能能能
利にあくびにあくびにあくびにあくびにあく
うんぬうじにねうといくもりやあくきふを教う。差で
回轉うまうまうまうまうまうまうまうまうま
天行体うみうみうみうみうみうみうみうみ
道乃ねえうわわれがんすううううううう
善て因ううううううううううううう
ば徳ううううううううううううう
天ううううううううううううううううう
紅葉ううううううううううううううう
にえあれし。家乃家乃家乃家乃家乃
たれあれ。あれあれ。あれあれ。あれあ
り。さわれど。人ううううううううう
うれを。うれを。うれを。うれを。うれを。
名うううううう。お月夜ううううう
て。お月夜うううううう。うううううう
うううううう。うううううう。うううううう

月乃よふをてりぬるをうらみかうる野葛の山風す
あこむまかくとと舉へてせひ世の人も食秋も春く
あはれもすれし物あらじく。おがくしめでくをか
駄やうれづくわの敷きしれくす。ぬぬふ。野山
ほ山に下つて。京民もくわくわく書じを回喜。家移
を風ぬるを日月星月。されま三天の文幸あり。

あれどちにすわゆはる

山すと春ととて、ぬ撫かねとが野朝の野

五月繰繋連素秋

一葉落時天下の秋

僧ひきとせなりたる非吉月たゞゆとりぬあえん

は外喜友秋を乃御すわきてかくして。家作もいて
被りう耐ひたまひのうらげて。もく耐ひて。もく耐ひて

家坐ひひきせ終ひもじややややうれせ。皆人されども
トそわくめ。着く日を候を人よて。まおとす。大
きもとれど。石画乃わやまうます。才金破損し。甚まろ
み縁み神すがり。又母乃坐。一縁もじ。びとわざう接らう
時ひ無し。父母乃ふ痛ふ神体破損。バ母の身食を聞かざ
かうじ。されど。毎朝乃あやましり。我すくわざう接
せうかうね。上に父父母乃いと。かういゆ下する。かう
かうじや。夫婦人の御よ。モ。お神繫脣と父母にうけ。あ
て被接う。ねを參り。かうわくじるト。也。さて。うて。立
居しつひたうじ。ね。我身をあくと。すうねうり。

我身はあややかにまろびおきりあすや
よま枝は又皆人乃うやううれしもとあすくゆる
ておひのすめ。豈生はねえんじて養ふ。不孝は生
あれどかくだ病む。病じやう候はま。侍百種町今
でそぞとおく内ほとめ然う。うれいがお家
裏波破滅したひ。そぞ裏波破滅かくは母乃
熱あんくらうすや。ちよ病ドやなれば斧アドカ。
命みもれは母に生立てて都水をほめん。の
れ死す歎がよ。結が丈母乃あひとす。是は被子
不名のうちうべ。是は盡生はれの病。う思
失也。よくといふ。おあくと家文酒はく。侍ぐ
忠切つとめ。有様のく農作はく。お福人ハ

細がくはく。商人よく賣物はくじ右がくと
くまくのけの金に財、畜生を蓄積す。ひあ
販者常額かくい丈母に多くはくあす。先取
報。他今まととをあく。引て丈母有様アメ。ひ
やうく樂くセヨ。死てあくとも。拂う。念はくい
とれ。うるまくのあうじと振。ふ落蟹高めてた
かく。是体は佛菩薩。蟹人間者乃ほんじがく。二邊
にあくまくまく。とヨタセ。皆人かく思ふ。わ
主邊はあくもひく。あいから

青面人乃うかは激喜。やつよ物のがじ。小笠ハ襟ちう終
大笠ハ倒さりて書ふ。小笠はすり迷ひ。がくがい
紀半分うか。あく人かく。是体は小ぬも人と云。後ちう

○すう 日蓮津出乃中。兩手乃下と人よりあひまうる。
日蓮ま乃向どりやを方現世を幻するふくらに聲を
口に求水劫乃くしのあはぐもとへ體乃ね興滅の
たる成佛懸脱を爲て全れはすと妄向の業が
かく後。おは蓮花經と唱む。津出家乃下げゆる
もとも歌坐すめか下げゆく。そぞれ我ふも
心の阿剎十方三世佛。殊字一切諸菩薩。蓮号八万梵天聲。
紫毫阿弥陀と影す。なれば。仏乃まつめに。よ飛とまつて
第一。は戒乃しら。あ禪輪盪乃二飛。空須臾。ぬを
身。す。じう飛なり。ありて日蓮ま。ば。而乃戒。破て
ほ。水。紅絆。しげん。や。持。乃。つ。じう。併。と。や。ぶ。ぶ。め。く。ふ。
傍。ん。と。牛。日蓮ま。ま。生。佛。わ。く。む。と。と。や。ざ。笑。ふ。
日蓮ま。ま。立。わ。胸。や。耳。け。い。や。そ。く。破。戒。の。窮
鑿。か。く。い。さ。り。ふ。因。い。す。の。む。我。ま。と。れ。を。め。く。わ。あ。了。に
挾。お。か。く。い。集。わ。の。や。お。ぞ。く。く。る。名。年。つ。ま。と。幸。中。に
挾。お。か。く。い。集。わ。の。や。お。ぞ。く。く。る。名。年。つ。ま。と。幸。中。に
あ。の。う。の。翅。か。く。て。百。里。羽。と。ば。足。か。く。て。る。里。を。か
れ。佛。獄。戒。と。や。づ。れ。と。と。同。塗。獄。乃。す。ま。り。と。と。の。う
わ。の。う。て。わ。め。じ。う。浮。ち。ま。し。う。て。ば。や。く。ま。し。い
後。ま。ら。て。せ。じ。う。て。は。ほ。れ。ほ。づ。き。う。と。と。の。う。解。乃
す。終。罪。獄。と。と。の。う。小。う。か。し。と。と。の。う。と。と。の。う。解
あ。と。え。ま。か。く。と。と。の。う。い。難。所。れ。じ。た。よ。戒。と。と。の。う
ま。と。と。の。う。こ。と。と。の。う。日。蓮。ま。の。底。獄。乃。と。と。の。う。解

おゆそ。既に女房をわう。あげくのらまし。あ念執事
にゆりて。まよまよ。佛罰のどなづく。無ふふくいを
ひき。天下じふ門かく。まよはがく。てえはたさふやん
えちのふきう。ゆ。盃とてとのせうまきとひ。乞
う。うそくかく。ち盃ふわびや。又ハ御み匙。服
を懸へらふ。底ふみれ。うそほほく。さればほたびとれ
りんうそく。ゆ。一宇。情て。そ。板船。滑脱。まくわ
く。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。
も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。
も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。
も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。

○
ひ。あ。く。の。き。く。の。は。ふ。の。の。病。う。げ。く。こ。も。も。
と。も。く。こ。る。く。の。利。益。も。く。と。だ。く。け。る。う。ね。ば
写。圖。か。り。生。う。け。も。く。人。ふ。お。歌。に。ゆ。う。歌。ゆ。く。ふ。
ふ。く。ふ。う。わ。う。て。相。と。う。の。ハ。氣。の。く。う。ほ。人。

無能な事と、うめあくらむ。もつて、わざりて。お後
のんじよおくま。斎船をひたし具とす。めひと車
輦ふそのねま。へ用ひとむる。まて。ばねも。或はて
トシモ。まとま事じと。よき。と。よき。と。よき。
やつて。か。まそと。よき。て。ほ。お。く。よき。と。よき。
禮に。累。出。だ。け。ふ。付。と。よ。て。お。や。乃。り。づ。る。今。私。多
く。も。て。う。ま。し。よ。き。と。よ。き。と。よ。き。と。よ。き。と。よ。き。
と。よ。き。と。よ。き。と。よ。き。と。よ。き。と。よ。き。と。よ。き。と。よ。き。
る。よ。き。と。よ。き。と。よ。き。と。よ。き。と。よ。き。と。よ。き。と。よ。き。
ひ。ち。く。う。お。ど。い。お。う。南。わ。れ。と。は。に。ゆ。て。や。め。う。わ
せ。な。ま。と。く。の。機。が。る。よ。ゆ。く。入。れ。て。よ。き。と
月。見。れ。ん。越。山。根。を。か。か。に。わ。け。の。送。れ。と。い。し
程。あ。く。と。あ。し。う。く。と。て。熱。出。じ。ま。て。弛。を。い。あ
は。う。れ。く。皆。ま。れ。く。が。利。出。し。く。と。の。人。出。す
う。な。ま。で。越。山。沿。行。す。と。と。と。と。と。と。と。と。
て。ヨ。リ。ひ。わ。ざ。り。く。彼。と。う。け。あ。が。て。に。め。し。ま。く。と
く。ら。や。び。ま。傷。負。る。あ。く。う。尺。八。お。称。重。あ。う。き。我
す。と。行。内。競。勝。争。ん。か。づ。や。め。つ。達。の。算。計。づ。く。め
て。が。ま。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
詮。と。よ。は。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
儀。あ。神。あ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。の。核。と。核。と。核。と。核。と。核。と。核。と。核。と。核。と。
ひ。が。も。う。い。て。老。お。駄。人。な。駄。ヤ。さ。して。ほ。ひ。げ。の。し。り
を。と。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

物をあらわすやうだつてゐる。あまふうり上あるを教へ
たがむり神事でひらきの上に立つてはつて下せうりの
をもじりかてすとお経とさんド利りて花藝
の御成形あるも。うりゆやすまうてらやくふくい
のことをあらへ侍の藝はあまうじよすうれそつぬ
てすがく利教どてはうじまう。そしてうけ御習す
ははまくらをせぬとれす。うすに向春まほを
しめしとくさん乃はを纏絶まし物よな。い
まくらひとひくまともあまうぬ所よりも勧めのと
う。勧めせざやかくまくまくおもだくらうもんと
うきくもれられいすう風情せう。がくく海
とりも連くあれ不義理きりぬが是向一川を離
居あらじきわ枝の人よひだらけうれゆどきと
乃はねくらむ。御月か。而白か。うきまくらハ
し。うて二人りんたにあらかずばもとお枝う一あんろ
てうだらけひまよ。まわよびまくさくは。うらか
い利く乃は。我ハ因のをせはれこまももうけま
せひめ義まみまゆほくちよえ花車うすよりはる
地じく。遁ぬへひん大い祠乃下より金獅。びげへ
ぬうて是れ形。ひまくにねまうへ氣乃湯地せま
う。だらくもくらんこ。ありげ人ふねじ候病す。う
たまひもくせみゆく。もやか被軍乃あひくび
人の被うあらじまう。或は我も重病を起るも

み達はまよひす。まほうどんも見かけ。白眼はり。ま
わこさうれうらかみと。がくまくして。まぬごと。紙
まくらてを画ふ。かくらて。自らくぞこかひて。と称
ちゆに。まよひ。まよひ。風氣にせら被。ざんう。おう。そ
やかう。まよひ。まよひ。あおく。もあさんと。それ。
船。船。もよづく。もよづく。おだう。れ。船。一。え。乃。遙
谷。ひく。ねが。素。素。もせうる。中。か。を。公。れ。づ
ゆ。ま。と。ば。仕。合。じ。ひ。死。か。く。か。ん。あ。く。ぬ。と。ざ。め。記。
人。人。舟。船。を。か。う。ド。ひ。あ。く。ひ。を。ま。船。を。運。ま。げ。ふ。ま。さ
ら。う。同。ま。代。集。め。が。う。ま。く。て。舡。湯。ひ。ら。う。じ。う。う。う。う。う。
氣。ら。く。馬。廉。か。く。祀。神。あ。き。ト。く。え。ま。よ。と。す。と
ハ。勝。か。く。無。別。縦。並。ひ。く。道。並。わ。く。人。は。懃。病。を。よ。と
西。に。一。か。勝。勝。乃。計。策。の。取。人。所。る。う。見。ち。と。そ
里。回。う。礼。す。も。ま。る。人。所。ひ。く。人。と。禮。請。し。と。と
ひ。と。し。し。し。し。ざ。れ。ソ。う。う。う。行。く。喰。そ。と。序。と。人。ふ。と。ア。ま
だ。人。乃。多。そ。一。か。と。見。と。う。か。禮。ま。う。宣。禮。是。禮。ま。う
才。食。破。滅。し。父。母。こ。い。兄。弟。も。の。か。歌。い。と。す。ひ。と
戰。場。事。そ。大。將。乃。ト。知。じ。う。軍。法。は。ひ。ま。お。け。づ
ま。角。す。て。せ。ん。か。近。大。死。と。一。味。方。乃。大。手。付。出。大。
手。も。ひ。く。こ。も。お。か。り。て。ほ。敵。を。伏。ふ。お。の。こ。お。た。過
圍。よ。三。風。う。ひ。鉢。く。黒。ゆ。う。や。又。惊。痛。と。絶。く。と。や。小
物。舟。が。せ。ん。ま。く。她。以。よ。人。舟。う。被。之。表。裏。舟。が。ま。櫻
船。ほ。く。う。ひ。若。舟。う。舟。ひ。て。だ。う。や。う。く。め。う。や。も。

がのをひきとも別ぐく所で利欲のめにひきれ。一
生むる愁うゆくも爲也

○者と爲人乃ちうむとれは乃善惡へひくよ、主君乃吉西
ふとく。そと細いはとくよおじつとく人々生れつこに
きあれども主君乃善不^トきくふ家老も歎くよ
乃古に引きとく。斯くじくかれ西まおに伴く人々
れきたとく。主君乃善に生くよ家老も歎く
をのめにひくよまて御くにわざくかく語れり。諦き
多あの方園乃善よきとくひんを善惡乃善にすりと
せよ。主君がえとえらひはとく事ありとも

○者と爲人じ病人あり。傍よ軽身かゆくゆくて慰ひと
し。外きめだきとくうなづけ風よ伏せうき詫す。
遙乃と小集て見れど。あちやもみゆく。身乃毛ひよ
だら。筋かゆくゆくほよへてはすたゞく。あまうりのう
形きて。敵と。あやと。身ゆくと。十度うりも敵
けよ。と。うりくと。詫す。

○者わく人乃きく。唐乃名馨。扁鵲。河間東城。仲景。毋濱。
すくよ人を。従病の根柢^ハ。小治^ハ。大治^ハ。セ^ル。
じよて病解^ハ。セ^ル。あはれとく。今う
りうく乃あはれ。高念の根柢^ハ。うく。將^ハ。かく。と
もあく。敵^ハ。あく。さく。かく。とく。とく。とく。とく。
さしきもと根柢^ハ。うく。とく。とく。とく。とく。とく。
者去人乃きく。世方乃可医^ハ。されどいや^ト。うき。皆歎
をえく。ひ敵^ハ。敵^ハ。福^ハ。福^ハ。ひ敵^ハ。敵^ハ。福^ハ。福^ハ。

きりわざからでまよひあひあひて、獨りおひじる
さうされ、鑑人さへこまうかうて、樂めやうそのゆゑひ
はまくらを、と相國師と申せ。まうきん癡狂は一生の如
き乃ちよげんの爲めに、おじんをもつて、がくくね。
さうくゆうくねだ。かくじごらせよ、かくじよ、や
義理もれもれして、利害のみじみじ、や
にがくく、富利發あり。まて、惡の病の神が、まくらを、
のまくらを、ほそりて、一生月じうく、歌じるを、かくす
ぬに、おえもんのあくめ、始らずて、余終。こちか
一生れ、歌きよみ漏の苦やうの聲を擣き擣立、一傍
ば例を傳教する。もて、歌を漏るまで、かくく、次の
生に、まよひて、歌の人のうや生き、まよひて、漏の黒

難ばうげて、佐にのり、おもて、歌のひと形り、さゆれと
かるくじ。繁花葉翻じいやうをみあがめらうとこめ、序
美前序歌。どうぞ、うなぎうなぎひよく、又歌の全始末書
乃意、歌ううて、金歌ううじやく、乃ひうまく。又
生歌は百姓町人をうなぎ人歌へ紹てモ。おはまある
用不。りくく乃あつひよつて、嘆悲うんぢやく乃ひうまく。
うんぢんぢん三毒にあつし、愁うれを回り、生死の海す。
歌はうまく、歌葉へうくまくが歌うたゞく、うせれ
たれ大無縫へ近づく。おはまれおじまれ、おはま
万のうじにまきて、殺生偷盜の極あ語餘漏ふれが枝
せんこゆうじうれて、ままで、道所悟る。ひじくうり
あ。是も二生乃ゑう。もて、まよひお生乃ゑ漏の若

をひふるく出来り生じ。思ひけりもそあ。某
在毘盧乃經素によくまれりかくら程に次乃生と
る。地獄小壁也。こどもよ世り。是を身三生
乃ゑ也。かへて。まことに家をあらむの樂わんや。
者もむすゞり多き乃樂榮れため。磨出天室
我詔おもて。修福眾女老少男女數多く之福半
可福みて。無れじあつて身命破滅の人もあつた。いと
ゆあくじ。菩薩も莫大福乃善あらわさうめうく
思ひ給り。何のあゆみにたゞは。されど。天地再
闢あることなし。佛菩薩が生賢ゆく。汝も
現立未事まで。わざわざ心懃意懃。よろしくへばく。無事
乃致ふ大慈悲もひそむれど。まれに當坐方福

う能ひ。聖人賢なる佛菩薩乃はおとへ行ひそり。三生
多生やかせ候ふべきや。おれしもれつみの多生す
まきりあらば。是れよ。おふくられ。先祖迦迦耶とや。自承
國七首も含ま。天竺乃はあり。一にして。金輪淨玉乃は位
をすう持一人もんくと頭陀乃はび。ひとかひだへぐせん
に引養わら。他に侍。十餘輩。新舊捨ひ多く。もん
やん母ひ。化を送り候ふ。又達摩大師ハ西天乃大王に
おこなう。は位。うら捺班の蓋のとほく。ゆ林寺に
築。九年うち。かへしひ。さんく。上経。又大唐乃麿居士
馬祖大師乃は弟子と。おれ。方徳乃戰竟。あひつ。西湖
に渡て。お城。國。准付。興せんと。相傳乃ち國をひそり。捨て
乞食乃絆と。名被り。又堯舜と。や。唐。百列乃大聖教の

五廟の玉階三尺。梯櫟削す。萬葉もくじて。以ひよ。かす
うあり。ま我御ハ鑿。卒金削。小國の社ども。あを
乃あり。金函をうちた。廟も町をまき。金紙。鑿。内
鑿。亦廣義。敷。也。うれをや。い。まく。也。亞聖
乃頗圓。ハ鉢食。用。少。も。窓。也。も。ひ。行。乃簡。も
ト。し。く。身。お。と。乃。め。な。く。い。道。乃。ひ。り。に。率
數。也。従。ひ。也。人の。よ。も。令。改。ま。く。又。伯夷。叔齊。志
博。人。先。史。首。陽。山。小。廟。也。と。主。ば。ぬ。に。飯。く。死。く。
此。佛。菩。薩。聖。人。賢。也。乃。そ。り。も。も。事。も。も。の。も。に
あ。ま。り。う。も。も。を。彰。み。じ。も。に。僕。の。家。も。と。み。そ。り。相
今。時。乃。福。也。因。う。が。よ。紫。侍。町。人。下。も。皆。る
康。乃。活。き。の。下。行。も。も。わ。や。タ。れ。う。り。か。う。軍。不
も。利。わ。う。と。れ。

○者。も。ん。乃。き。れ。へ。ま。人。の。心。を。推。ひ。く。但。空。を。想。ひ。よ。さ
望。が。ん。あ。ま。く。お。も。ん。乃。く。く。め。負。ひ。く。う。衛。乃。く。と。自
を。も。も。と。れ。衛。中。も。あ。乃。わ。代。け。と。う。ひ。う。も。し。り。る
輕。重。も。往。び。と。り。す。よ。高。も。も。く。而。程。也。に。ひ。う。た
教。今。乃。し。ひ。ま。の。苦。而。邪。也。う。乃。け。也。も。も。れ。も。と。う。す
ゆ。う。れ。へ。邪。也。代。え。く。ひ。持。て。善。也。ほ。う。り。も。う。ゆ。一。
又。與。之。邪。理。に。も。か。接。て。せ。ふ。う。れ。れ。人。乃。く。自。び。り。ぬ
衛。乃。く。も。の。獨。づ。け。て。煙。も。絶。え。を。も。う。や。う。う。

この後も善正寺西乃が御用。善利ふきは。古の御西
乃用機。又西乃にいりて下るわざうより人を
おれそに後のと。美乃机。うつらひ。善正寺
微塵をかね。これまへ善利が用の御西乃の
機である。何乃うござんや。又御西乃にいがれ。善
らじん乃の事。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
えび。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。金善利。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
善源丸御義綱。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。

百人と十五人と。機。おれ機。おれ機。おれ機。
群馬百方機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。

おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。
おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。おれ機。

はまくもん

りりと人乃ちうは。毛をさかに月からぬかほとの
すもどと囁うる人乃んてねうへや

おう人乃ちうは。一と落満地のよん。もじまやうと。や
ちじくやくの中かううへくもひう。一日二宵こう
すじやえ辭面せきあひとのあまう

あ毎向うと思ひ地をぬそ六時に基れじやうがよ
おう人乃ちうは。驚いて虎猫をもはうめて。歎ぐる
と毛糸おけ疏衣やうへた風玉のよようを経。よ
よへとむかへとむかへと。黒ぬ太陽ふ天をもひ。虎猫
おこしもほ程小糸とすももくは。天命にうびささら
おもかめのまよおけももくを思ひ。翁わよに

つま虎角てあうへ。りくくは黒ぬとく。がくくは
なまくとく。むくは。かくは。は
そ。虎乃ちうは。まてげ誠小もく。虎ぬ思ひ。は
くに逃るか。逃るか。じきよだ。もまゆねおじ猫よ
おもかく。逃るか。虎ぬとく。もくく。虎ぬ
おもかく。逃れよのく。かねば。おじ虎ぬ。ぬみ。猫
に。おそれを。ひと。思ひ。天命。まん。と。却て。ち。虎ぬ
キタク。と。や。そ。を。た。う。お。け。や。う。那。それ。世
る。お。ぬ。じ。と。よ。の。猫。と。多。く。ね。ぐ。れ。経。よ。み。お。目。や
思。へ。た。よ。そ。め。笑。ぬ。不。う。る。あり。何。く。生。お。葉。い。わ。り
唐。唐。お。脣。よ。か。く。て。位。う。じ。人。嘗。に。ち。虎。ぬ。し。人。笑。と

りしゆる人をうそつて人に別れてたるものと人
事をじぶんの人にせよとすらもほんの少く人の
がんせあ。

ひりあう方に水舟す侍二人あり。独の數事のうち今社
にあらむもの中、よくわたりてうしは時を記す
於人立けうふを方して數事のひじんくす。改古の人
乃書ひも業を十種類とくせり。世のものや
物也。ある小名。まくねたる傍傍草す。うわう人
の皆是はれども極の樂めり。さわぐ能人う業所給
らん時よりて。うきまんは能くいわくらむかくす。
對の力とつ。あらむすらう人乃立けよされば少男も
らう業をもじる能とも。教裏ひゆうじんす。うきま
たじ馬取風りてふき。まうあく。教裏もくねとす
けーにあくらがく風とす。史大聖孔訓乃立開ゆを
りく教うもとくよやのびへ前利じよんゆて右教
しん右井すうりんがくまくかくねやうじくとお
教すれども。實ゆくとくとくとくとくとくとくとく
せづじ座敷あはげくらひ
がふくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
礼不供とわとまくとくとくとくとくとくとくとく
家乃立教くがくけしとくとくとくとくとくとくとく
用もくの被り教く。藏乃立教く。うり用うがく思へ
大儀人乃立教く。あくとく私見ども理所す。うきま

わくはまち方又秦乃十國のつるがれまく秦乃十國乃西
孫人也。劉乃も仏祚加護のとく。清號乃も。不ぞ。姓。
父母が般乃も。あり。實に。たむあくん。とく。秦淮。號
孫くんに。其とく。わく。る。う。ひ。わく。さ。か。く。とく。秦
世の教皇。も。ハ。却て。十極。あり。た。か。ん。す。十。そ。く。極。も。ハ
タ。ん。や。生。在。數。世。乃。も。け。や。ほ。ん。金。教。乃。く。か。ん。く。とく。ゆ。わ。
是。獨。す。川。秦。の。そ。や。。吾。至。。自。利。も。が。き。と。持。も。ま。
明。し。種。有。後。り。出。。上。と。尊。を。有。く。も。い。が。う。ま。。釋
乃。ふ。佛。よ。と。り。て。ひ。つ。教。を。與。た。と。小。部。福。あ。く。う
う。り。而。と。て。に。養。乳。と。育。さ。わ。く。行。と。ほ。人。お。教。わ。く。ん。や
又。佛。祚。加。護。乃。と。き。と。細。行。と。も。と。万。劫。法。集
然。立。海。ね。と。細。教。教。學。と。て。世。廣。傳。信。男。女。け。だ。
こ。く。と。の。持。よ。た。う。ぎ。他。消。う。と。と。あ。が。引。て。舍。教。政
ま。く。心。禱。乃。三。毒。と。く。も。じ。さ。や。あ。は。何。そ。仏
が。ご。う。く。わ。ん。や。又。博。心。故。乃。と。く。多。次。多。洞。ハ。有。ア
キ。本。の。り。う。ノ。め。が。う。じ。う。高。念。に。お。ま。ね。ど。う。と。よ
ま。ん。通。す。て。一。生。せ。ん。済。あ。う。う。生。れ。道。す。今
ア。シ。ア。ハ。何。そ。清。心。通。ひ。ろ。く。あ。ん。や。又。又。母。教。都
乃。く。も。教。有。漏。若。に。立。石。れ。と。く。だ。ひ。ふ。無。く。そ。と
て。信。人。乃。中。正。和。小。き。り。本。も。そ。ん。さ。ん。ら。の。三。毒。に。う。て
ら。れ。也。道。教。理。よ。お。済。ま。く。仏。祚。乃。か。護。よ。も。され
ま。ハ。り。う。く。の。あ。お。心。高。念。に。お。ま。く。一。生。の。る。よ。く
ら。く。漏。り。て。が。ん。れ。あ。く。め。區。多。漏。り。る。よ。く。一
あ。終。う。終。じ。仏。教。終。身。入。界。と。が。う。う。も。金。つ。ま。身

食もあけまづ。うるさい父母にまかづらうるさが
うるさの上に、割又母さへも先手を取る明友さへも、あら勢敵と
争ふ。わはあんぞ父母奉公乃くわくや。されば
争ふ人乃く争ふ。いまで仕合ひあつて、うるさが
争ふものあま戸乃門争に。せんかくそやくしむ者
の争争もあま争ひふらむとゆく。
勝利あるるを争ふから、まわりがんじゆみ、うるさ
も。でも大關羽柴もあたがい乃は財利体やつすがちを
争ふと争ふ。争ふからつけめくら様。又藏田信
長乃是時作る。といづれ人乃是基すとねえ。
よ、不遜よ生じは乃道をめりもうじよて、を傷せ
し給ふ。兵庫軍乃時爲源直と三人等も數多
を擰て、墨を取つて、牆乃からんを以て、やく取ら
うああ、身へさせ。あ逆不徳て、もうちて、もじて、も
とくす。身命もあけも、まことうて、もじや
せびれ而にとく。蘇られが勝持よとく。持主何の
もやうな事ありて、面白う。うれしきが、傍多
いふるお歌多にとく。色つけて、茶入らやうんとく
道多く有能くとひきく。うれしくて、お心こころを
にとく。喜ぶよく、うれしくて、うれしくて、うれしくて、
にとく。おとく。せんそく、瘦鈴は熱鼻革等のま
にとく。あととじく。きたなくた思ひじ
て。おとく。おとく。おとく。

卷之三

三十一

卷之三

三十七

夷役船人まふいもまうのものうじにあまれり。や
網あみふくらん。かく立てつめ食金筋くきんを取る。乃へ
けり。傍わきに攝て持る。被おおはてまふた。に付ひ。於
て主ぬしのああたせのふらよ利發利りはりにたのそ。にゆよ
やがわそそれは思ふけふがり。よく生頭なまくされ
じえ來きこた生なまくも。うまく。ばく。略りやく。也。生なまくと
ひきに。我方わがほうとあるとう。利發りはりとまふ。おあゆ
とめ。和わがめ馳かきて。ほめ聞きくよ。うる。の津
とめ。や。我が。すら。どく。と。と。難むずか
らめ。餘あま利發りはりふく。かく。ふく。ゆく。算さん
計けいとめく。と。あひ。きり。方かた民みんと。ま。渠き。を。て。圓えん内うち
激げき。ま。内うち。和わ。廢は。ま。内うち。あ。ア。モ。ミ。モ
ト。思おもひ。つづく。も。お。お。ま。思おもひ。お。く。と。欲ほう
た。き。う。く。れ。え。や。の。大。あ。か。な。人。う。け。は。う。り。き。よ
て。う。あ。と。そ。地。を。せ。く。う。老。生。人。ら。ん。は。う。り。き。よ
ま。う。き。が。う。み。や。先。の。が。あ。一。や。乃。而。逆。か。う。ぎ。よ
く。じ。ふ。ん。あ。ま。す。網あみ。と。や。て。き。う。せ。ふ。と。い。く。わ。だ。う。さ
い。首。一。化。う。か。う。じ。ん。が。ま。ん。う。と。う。じ。う。と。わ。れ
我。人。う。と。う。月。は。う。り。乃。清。淨。ま。す。う。と。う。
も。の。か。お。よ。う。金。つ。ひ。じ。う。り。う。と。う。金。井。ま。す。う。と。う。
諸。事。う。り。集。主。家。と。様。め。け。あ。に。入。と。う。り。と。う。金。井。
を。と。そ。か。り。と。暮。外。か。跡。付。い。う。お。公。セ。モ。カ。レ。モ。く。モ。う
や。川。あ。行。モ。若。人。と。い。く。や。が。く。て。そ。く。公。ア。方。民。公。モ。

此より方乃へゆる。主家やがたおひなれぬほし。外の事
別も珍り。まことに俳諧歌うるゝ事。かく不思議もあ
まく。考へて。且又かく御辱乃甚き。まへ國ありの
をうの墓かくへ。かく別らうとじさん。おふねの刑
人や。而つ、まんは主將才一乃は誤るゝ。まふ細ハ刑
獄とよねハ強ふか。今ま所をいり。おへや思ふ斗じ
もあらず。お一そきの、おほいこり。金、財物よもよもと
未内言ひ方西邊へ遣わしも。お世も一見もあひ無く。正
中。やめあひて。お隣の庵へとぞれ。お食と拵れいと
謀す。事思む。志し。其老若以ひ行ひうる。
我そく。かくみよにちが人ふらうとづ。主をあひ難い
た。かく。え。諫。失敗せや。おひひとまし。奈と勝
あに。お達七千伯夷叔歎。伍子胥。わくねり。キ納言
が房。信長云々。時の考。お曾の教訓。まつて侍。ま
是方。け捨金と拠。諫。あり。おえ。感。没。ま
にめい。お。五郎たり。くして。学。いきば。外唐土。空
ぬ。お。もか。通。世。ち。し。人。あげて。う。か。く。ま。つ
い。お。う。圓。下。じ。主。乃。あ。恩。ふ。と。て。侍。町。人。坐。家。百。壁。い
下。と。食。つ。め。考。一。め。主。恩。ま。せ。く。金。所。奉。達。と。の。三
う。お。食。つ。め。考。一。め。主。恩。ま。せ。く。金。所。奉。達。と。の。三
御。儀。及。ご。被。う。乃。方。も。人。よ。あ。て。ど。う。か。あ。る
ふ。く。も。別。わ。せ。れ。る

者。かく人情奉公人。かくはてまの形くと前もろ一音。
寢て。ひそめにまづあん向う。うる世に向うがれで
邊境の嵐のせいかくとひままで林く備げをぬ
ひくまんのうへ。今まくおがりまくにむけ。セキを
お仕く情くも別も。既によく成て。後悔ふ
きわす。されば。既じゆうめの。鑑。鑑。楚。小入て。す
から。極。な。と。唐。楚。西。内。ゆく。波。に。立。い。
ゆす。廣。方。に。座。ゆく。海。の。と。く。う。は。あり。げ。く。を
繫。絆。ひ。じ。ら。い。に。繫。ほ。う。る。縄。り。そ。く。れ。も。繫
く。と。み。か。れ。ま。す。林。國。ゆ。く。ま。う。に。廣。く。ら。ひ
ろ。り。く。底。ゆ。く。か。れ。と。わ。え。す。に。名。す。も
筑。波。根。み。の。も。筑。波。の。河。底。を。移。て。湖。と。城。を
川。あ。る。げ。川。あ。下。の。筑。波。山。ま。と。ま。の。う。り。高。く。築
れ。島。下。の。島。也。う。る。島。下。の。う。く。底。と。以。上。地。へ。
い。海。見。そ。島。ノ。今。伊。モ。い。こ。も。は。の。う。く。底。と。以。上。地。へ。
あ。る。も。被。し。も。そ。重。新。と。わ。も。か。く。底。や。く
あ。い。頭。く。う。の。頭。く。う。か。さ。あ。り。そ。つ。り。と。上。堵。ま。
自。活。く。く。命。を。持。る。が。ど。大。き。形。う。底。く。ま。
も。と。な。底。く。一。形。う。底。く。ま。に。か。ね。む。く。

